

滝谷カルスト

滝谷カルストは、関西大学探検部の、ここ二年間の踏査で、しだいに明らかにされ、そのマイコミ平の全調査の中で、大きなウェイトを占めるようになつた。

そもそも滝谷とは、何であるのか。滝谷は即ち、大穴の沢であり、千里洞を形成したものである。さればカリカ、大穴の沢、ドリーネ群、ウバーレ等、滝谷カルストにあるすべてのものは、この千里洞形成という、大きな仕事をしてきたものであると、言える。

滝谷南尾根（カルスト尾根）は、青海の石灰岩地帯の中で、最も多くのドリーネがある。

カルスト尾根は、大穴の沢と、南沢とに、はさまれた、ウバーレ、尾根で、沢から、尾根までの高度差は、約40m～20mとほてりる。ほぼ、どの地點でも合形となり、沢へは、かなり急である。上部は、下部に比べて、尾根が狭くなっているが、ドリーネは、かなり、上部の方まである。

▷滝谷下部カルスト

滝谷南尾根は、千里洞を形成してきたと思われる沢、ウバーレがある。

通天洞から、大穴へのウバーレ、滝谷尾根の中から、大穴の方へ向う、ウバーレ2本として、大穴の沢と、千里洞を形成する放射状の谷がある。この地帯の特色は、ドリーネが発達し、ウバーレ、もしくはウバーレ状に広てきていること、即ち、ドリーネ、及び洞窟の発達段階として、最も進んだもの、即ち、最も激しく侵食されてきたものと思われる。滝谷が3、4洞が、これに、含まれる。

▷滝谷上部カルスト

滝谷南尾根下部は、さりげなく発達しているが、

上部では、未発達である。滝谷カルスト尾根上部は、ドリーネも、まばらで、かつ、ドリーネ斜面が急である。また、ラピエや、カッレンフェルドが発達していることは、石灰岩が、土中で侵食されていたことが、わかる。即ち、下部カルストは、流水によって、形成され、上部カルストは、土中で、化学的侵食をうけ、ゆるやかに、発達したものと思われる。上部と下部のちがいは、カルスト地帯、どこにでも、あること思う。

▷滝谷尾根

滝谷尾根（カルスト尾根）は、北部が南部より低くなっている。即ち、大穴の沢が最も低くなっているということである。これによって、千里洞が発達したといえる。

▷南沢

南沢は、石灰岩地帯と、非石灰岩地帯との境である。

千里洞が、何故、深いか。それは、沢と、ウバーレが放射状に、集中しているからだ。

▷千里洞（小穴）

小穴のドリーネの北側は、30mにも及ぶ岩壁がある。それは非石灰岩であるが、何故ここに、こういうものがあるのか、白蓮洞から千里洞（小穴）へ向う、谷間、この谷が、かつては、沢であり、その岩壁が、その作用で、出来て、こりのこされたものと思われる。そこで沢の途中に、千里洞等が発達した？

▷マイコミ平

マイコミ平には、莫大な量の、石があり、3m～5mの丘陵となっている。これらの石ころは、千里洞が発達する以前に、あらゆる谷から運ばれてきたものと思われる。

以上は、あくまで推測である。

（田中、記）